基礎経済科学研究所 自由大学院
大阪第三学科(金融流通協同組合論ゼミ)からのたより

［第８６１回ゼミ報告］２０２３年７月７日号

最近、「線状降水帯」という用語がしばしばニュースに出てくる。激しい雨と洪水・浸水へ、丈夫な傘も役立たず。これも地球環境の影響なのか…

６月２８日のゼミは、斎藤幸平『ゼロからの『資本論』』第４章「緑の資本主義というおとぎ話」を斎藤さんの報告で行いました。この章では、現代資本主義の大きな問題、環境危機をマルクスの物質代謝論から見る。マルクスは技術革新に楽観的で環境問題は技術で解決できる、と言われて来たが、物質代謝論で資本主義と自然との関係を視野に論じている。グローバル資本主義が深刻な環境破壊をもたらしている。“大洪水よ、我が亡き後に来たれ”と、資本家は労働者の健康・寿命や環境になんの顧慮も払わない。マルクスはリービッヒの略奪農業論に感銘し、資本による略奪が人間と自然の物質代謝を攪乱し、修復不可能な亀裂が生じると論じる。本来、人間と自然との物質代謝は循環過程であるが、資本主義ではすべてを商品化し私的所有と利潤追求が地球環境を破壊することから、革命的変化で別の社会システムへの移行を示す。晩年のマルクスは最新の自然科学に刺激を受け、ポスト資本主義社会の姿を地球環境の持続可能性の問題を絡めて構想していた。環境社会主義が人々の経済的平等だけでなく、自然と物質代謝の合理的な管理を目指している。資本論３巻の草稿で物質代謝論を展開しているが、エンゲルスによる現行の第３巻ではこの新たな問題意識は見えにくくなってしまった。

討論では、現行資本論３巻４８章「三位一体定式」に「物質代謝」の言葉が出てくる(原書 S,828)。「緑の資本主義」と章題にあるが、本文には出てこず、グリーン革命とは別の概念である。二宮厚美が新しい本で物質代謝に対して「精神代謝」の概念をケア労働者などに使っているがどうか。代謝とは捨てることで、物質代謝は労働による人間、社会と自然との関係・相互の調整である。アソシエートを物質代謝と関係させて、アソシエートした労働者が自然を短期に食いつぶさず、物質代謝を合理的に長期にわたる持続可能な形で制御するとあるが、アソシエートを環境問題とつないでいる。このようなマルクスの叙述は３巻の草稿からの引用である。

会場参加は川口さん・山口さん・高田、オンライン参加は斎藤さん・竹内さん・後藤さんの６名でした。

＊７月１２日(第２週)ゼミも、午後５時半(or ４５分)から８時です。
・オンライン情報　Zoom: ID: 898 9252 8069 パスコード: 123699

＊＊＊＊＊＊　ゼミ日程　＊＊＊＊＊＊＊

７月１２日(水)午後５時半～８時　堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
柄谷行人『力と交換様式』第２部１章 ギリシア・ローマ 報告:竹内さん
７月２６日(水)午後５時半～８時　堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
斎藤幸平『ゼロからの『資本論』』第５章 グッドバイ・レーニン　報告高田
９月１３日(水)午後５時半～８時　堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
柄谷行人『力と交換様式』第２部２章 封建制（ゲルマン）報告者未定
その後　9/27, 10/11, 10/25, 11/8, 11/22

◇第三学科事務局/高田好章： ytakada@kcn.ne.jp　090-8658-3755
HomePage: http://ysweb.g.dgdg.jp/ytakada/kisoken/　Pass: kiso